

2020年度(令和2年度)学校評価自己評価表

| | | |
|--------|------------------|-----------|
| 誠之中学校区 | 校番 21 | 福山市立箕島小学校 |
| 最終更新日 | 2020年(令和2年)11月4日 | |

I 福山市

| |
|---|
| <p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p> |
|---|

II 中学校区

| | | | | | | | |
|--|--|--|--|-------|---------|-----|-------|
| <p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育の取組から児童生徒の落ち着いた学校生活がうかがえる。 ・生まれ育った地元を愛し、仲間と意欲的に時代を担っていく若者を育成してほしい。 ・欠席児童生徒を少なくしてほしい。 | <p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた授業や行事に取り組んでいるが、学びに向かう姿に課題がある。 ・地域に積極的に関わりを持ち、地域調べや地域行事に参加している。 ・長欠児童生徒の割合が高い。 | <p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p> | <p>主体性</p> <table border="1"> <tr> <td>知識・技能</td> <td>思考力・判断力</td> <td>表現力</td> <td>自立・共生</td> </tr> </table> <p>自らに誇りを持ち、夢と目標に向かって頑張る児童生徒(中学校区)</p> <p>研究主題：自ら考え学ぶ授業の創造 校区共通のSDGs：11 住み続けられるまちづくり</p> | 知識・技能 | 思考力・判断力 | 表現力 | 自立・共生 |
| 知識・技能 | 思考力・判断力 | 表現力 | 自立・共生 | | | | |

III 自校

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|---|--|--|---|---|-----|--|--|--|---|-----|--|---|--|--|---|
| <p>ミッション</p> <p>志を持ち、将来地域に貢献できる意欲ある子どもの育成</p> | <p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> | <p>主体性</p> <table border="1"> <tr> <td>知識・技能</td> <td>思考力・判断力</td> <td>表現力</td> <td>自立・共生</td> </tr> </table> | 知識・技能 | 思考力・判断力 | 表現力 | 自立・共生 | | | | | | | | | | | |
| 知識・技能 | 思考力・判断力 | 表現力 | 自立・共生 | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>学校教育目標</p> <p>自ら伸びる子どもの育成 ～一人一人がもっともっと輝くカラフルに～</p> | <p>めざす子ども像</p> <table border="1"> <tr> <td>低学年</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○知りたい情報を人に聞く・本で調べるなどして収集することができる。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○自ら課題を見つけ、事象を比較すること等を通して、課題を解決することができる。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えや意見を、わかりやすく伝えることができる。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを持つことができる。 ○進んで集団生活を行い、地域に愛着を持つことができる。 </td> </tr> <tr> <td>中学年</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○目的に応じて情報を工夫して収集し、情報を選んで、活用することができる。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○自ら課題を見つけ、事象を比較・分類すること等を通して、課題を解決することができる。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えや意見を、三角ロジックを活用してわかりやすく伝えることができる。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを持ち、相手の気持ちを考えながら自己を表現することができる。 ○進んで集団生活を行い、地域に愛着を持つことができる。 </td> </tr> <tr> <td>高学年</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○多様な視点から情報を収集し、情報を選んで、経験・知識と結びつけて活用することができる。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○自ら課題を見つけ、事象を比較・関係付け・分類すること等を通して、協働して課題を解決することができる。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○相手や目的に応じて自分の考えや意見を、三角ロジックを活用して説得することができるように伝えることができる。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを持ち、相手の気持ちを考えながら自己を表現し、互いの存在や立場を尊重しようとしている。 ○進んで集団生活を行い、地域に愛着を持つことができる。 </td> </tr> </table> | 低学年 | <ul style="list-style-type: none"> ○知りたい情報を人に聞く・本で調べるなどして収集することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○自ら課題を見つけ、事象を比較すること等を通して、課題を解決することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えや意見を、わかりやすく伝えることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを持つことができる。 ○進んで集団生活を行い、地域に愛着を持つことができる。 | 中学年 | <ul style="list-style-type: none"> ○目的に応じて情報を工夫して収集し、情報を選んで、活用することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○自ら課題を見つけ、事象を比較・分類すること等を通して、課題を解決することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えや意見を、三角ロジックを活用してわかりやすく伝えることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを持ち、相手の気持ちを考えながら自己を表現することができる。 ○進んで集団生活を行い、地域に愛着を持つことができる。 | 高学年 | <ul style="list-style-type: none"> ○多様な視点から情報を収集し、情報を選んで、経験・知識と結びつけて活用することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○自ら課題を見つけ、事象を比較・関係付け・分類すること等を通して、協働して課題を解決することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○相手や目的に応じて自分の考えや意見を、三角ロジックを活用して説得することができるように伝えることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを持ち、相手の気持ちを考えながら自己を表現し、互いの存在や立場を尊重しようとしている。 ○進んで集団生活を行い、地域に愛着を持つことができる。 | <p>研究</p> <p>教科等 主題・内容等</p> <p>研究主題：国語科・体育科 自ら考え学ぶ授業の創造 ～自ら問い続け、伝え高め合う活動を通して～</p> |
| 低学年 | <ul style="list-style-type: none"> ○知りたい情報を人に聞く・本で調べるなどして収集することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○自ら課題を見つけ、事象を比較すること等を通して、課題を解決することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えや意見を、わかりやすく伝えることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを持つことができる。 ○進んで集団生活を行い、地域に愛着を持つことができる。 | | | | | | | | | | | | | |
| 中学年 | <ul style="list-style-type: none"> ○目的に応じて情報を工夫して収集し、情報を選んで、活用することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○自ら課題を見つけ、事象を比較・分類すること等を通して、課題を解決することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えや意見を、三角ロジックを活用してわかりやすく伝えることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを持ち、相手の気持ちを考えながら自己を表現することができる。 ○進んで集団生活を行い、地域に愛着を持つことができる。 | | | | | | | | | | | | | |
| 高学年 | <ul style="list-style-type: none"> ○多様な視点から情報を収集し、情報を選んで、経験・知識と結びつけて活用することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○自ら課題を見つけ、事象を比較・関係付け・分類すること等を通して、協働して課題を解決することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○相手や目的に応じて自分の考えや意見を、三角ロジックを活用して説得することができるように伝えることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを持ち、相手の気持ちを考えながら自己を表現し、互いの存在や立場を尊重しようとしている。 ○進んで集団生活を行い、地域に愛着を持つことができる。 | | | | | | | | | | | | | |
| <p>現状</p> <p><児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習に対する関心意欲が高い児童が多いが、主体的に学ぶという面では課題がある。 ・行動する力はあるが、「今までと同じように」という意識がある。 ・握力・走力に課題が見られる。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学び、学びを深めることができるよう、「自分は何を学びたいのか」を考えて学習に取り組めるようにした。 ・国語科と他教科の学習内容や行事等を関連付けることにより、学んだことをどのようにまとめたり表現したりするのかを、自分で選択しながら、学習に取り組ませる工夫が必要である。 ・自分の考えや思いをノートに整理し、それを交流することで、学びの深まりを意識させることができた。 | <p>めざす授業の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童自身が、何を学び、どんな力をつけたいのか考える授業 ・児童が学びに対する意欲を継続できる授業 | | | | | | | | | | | | | | | | |

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立箕島小学校

| 年目 | 中期経営目標 | 重点 | 分類 | 短期経営目標 | 目標達成に向けた取組 | 評価指標 | 中間評価(10月1日) | | | 最終評価(2月末) | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------|-----------|-------|-----|--|---|---|--|------|------|-----------|--------------------------------|------|-------|------|-----------------|---|----|--|---|---|---|--|--|--|--|
| | | | | | | | □指標に係る取組状況 | 中間評価 | 達成評価 | 改善方策 | □指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況 | 中間評価 | 達成評価 | 総合評価 | 改善方策 | | | | | | | | | | |
| 1 | 主体的な学びの充実 | ★ | 新規 | 主体的に学び続ける児童を育成する。 【主体性】 | <ul style="list-style-type: none"> 子どもが何を学ぶか考えて、子ども主体の学習計画を立てる。 | <ul style="list-style-type: none"> 学ぶことが面白いと感じている児童70% (児童アンケート) | <input type="checkbox"/> 学ぶことが面白いと感じている児童は、91.5%である。 児童アンケートより (%) <table border="1"> <tr> <td>6月</td> <td>9月</td> <td>差</td> </tr> <tr> <td>89</td> <td>91.5</td> <td>2.5UP</td> </tr> </table> | 6月 | 9月 | 差 | 89 | 91.5 | 2.5UP | 4 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> 子ども主体の学びとなるよう、学習計画を立てる段階を重視する。 随時、計画を見直し変更できるよう、選択決定する場を設定しながら学習指導を行う。 | | | | | | | | | |
| 6月 | 9月 | 差 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 89 | 91.5 | 2.5UP | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 豊かな社会性の育成 | ★ | 見直し | 自尊感情を高め、自己肯定感を育成し、よりよい人間関係をつくる。 【自・共】 | <ul style="list-style-type: none"> 友だちに積極的に関わり、自己有用感を高めるために自分や友だちのよいところを見つけさせる。 児童自身で生活をふりかえり、課題を明らかにし、改善させる。 | <ul style="list-style-type: none"> 自分が友だちに必要とされていると感じると回答する児童を80%以上。(児童アンケート) 自分の生活をよりよくしようと考えられる児童を50%以上。(児童アンケート) | <input type="checkbox"/> 自分や友だちのよいところを見つけている児童は7%増えている。主体的な授業の取組や行事に向けた練習などを通して、自分や他者の頑張りに目を向けることのできる児童が増えた。 <input type="checkbox"/> 自分の目標を決め、生活をよりよくしようと考え実行している児童は、90%である。 児童アンケートより (%) <table border="1"> <tr> <td>6月</td> <td>10月</td> <td>差</td> </tr> <tr> <td>自分や友だちのよいところを見つけよう</td> <td>87</td> <td>94</td> <td>7UP</td> </tr> <tr> <td>1週間の目標をきめてがんばろう</td> <td>90</td> <td>90</td> <td></td> </tr> </table> | 6月 | 10月 | 差 | 自分や友だちのよいところを見つけよう | 87 | 94 | 7UP | 1週間の目標をきめてがんばろう | 90 | 90 | | 3 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> 児童会が中心となって、自分や友だちの「よいところみつけ」週間を設け、カードに書かせる。寄せられたカードを掲示する。 思いやりのある行動を見える化し、実際に行動のモデルとさせる。 | | | | |
| 6月 | 10月 | 差 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 自分や友だちのよいところを見つけよう | 87 | 94 | 7UP | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1週間の目標をきめてがんばろう | 90 | 90 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | |
|---|--------------------|------|---|---|--|---|---|---|---|--|--|--|--|
| 5 | 基礎体力の向上 | 見直し | 自ら進んで楽しく運動に取り組む児童を育成する。 【知・技】 | <ul style="list-style-type: none"> ・体育授業の改善を行う。(子ども主体の学習展開の取り入れ) ・体力テストに向けた取組を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・体育授業の中で児童自身が学習計画を立てる授業づくりを行う。(学期に1回以上) ・新体力テストの県平均値かつ全国平均値以上の項目を全体の75%以上にする。 | <input type="checkbox"/> 学期に1回以上は体育授業の中で児童自身が学習計画を立てる授業づくりに全学年が取り組むことができた。 <input type="checkbox"/> 体力テストについては、58%の達成状況。重点的に取り組んだ項目は伸びがあったが、平均値を下回る項目が多くあった。 | 3 | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童自身で学習計画を立てる授業づくりを引き続き行っている、使用したワークシート等をデータとして残していく。 ・体力アップカードの内容を精選し、課題のある項目に重点的に取り組むようにする。 ・外遊び週間を設ける。児童会が中心となって、遊びながら体力を高められるようにする。 ・12月から全校でなわとび運動に取り組む、持久力の向上につなげる。 | | | | |
| 4 | 学び続ける教師としての力量向上と研鑽 | ★見直し | 児童が主体的に学ぶ授業づくりと研究をすすめる。 【思考力・判断力】 【表現力】 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童が意欲を継続させて学び続ける授業づくりの研修を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・職員間での授業観察を行い、交流する。 | <input type="checkbox"/> 職員間で授業観察と授業に関して交流を行った(平均2.5回/人) | 3 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・職員間で交流した内容について、全体で共有できるように、データを蓄積していく。 ・授業観察を行った学級について見える化し、取組の活発化を図る。 | | | | |
| 1 | 働き方改革 | 新規 | 全ての職員が働きやすい職場を実現する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・時間外在校時間の適正管理を行う。 ・学級事務や授業づくりのための時間を確保する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・管理職が職員の在校時間記録を週1回以上確認し、時間外勤務45時間を超えないようにアドバイスする。 ・週に1回以上、学級事務や授業準備に専念できる時間を確保する。 | <input type="checkbox"/> 全職員が時間外勤務 45 時間以内を達成できている。 <ul style="list-style-type: none"> ・職員それぞれが、1ヶ月の時間外勤務時間を意識して、自己管理することができている。 <input type="checkbox"/> 主に月曜日から火曜日に確保することができている。 <ul style="list-style-type: none"> ・日課表を見直したことで、児童下校後の時間を確保することができた。 | 4 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・年間 360 時間以内を達成できるように、状況に応じて退校時刻の調整をしていく。 ・「専念できる時間」を示し、職員が計画的に職務を進めることができるようにする。 | | | | |

| [プロセス評価の評価基準] | | [達成評価の評価基準] | | [総合評価の評価基準] | |
|---------------|--|-------------|------------------------|-------------|-----------------------------------|
| 評点 | 評価基準 | 評点 | 評価基準 | 評点 | 評価基準 |
| 5 | 取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。 | 5 | 目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。 | 5 | 100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。 |
| 4 | 取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。 | 4 | 目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。 | 4 | 80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。 |
| 3 | 取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。 | 3 | 目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。 | 3 | 60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。 |
| 2 | 取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。 | 2 | 目標を下回り、成果よりも課題が多かった。 | 2 | 40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。 |
| 1 | 取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。 | 1 | 目標を大きく下回り、成果が認められなかった。 | 1 | 40%未満の達成度 目標を達成できなかった。 |